【 診療科：血液内科】
【 レジメン登録番号：IG-55 】

〈 ビダーザ療法 〉

	投与量	投与経路	投与スケジュール（day）								
			1	2	3	4	5	6	7	・・・・・・・・・・・・・・・	28
ビダーザ	75mg/㎡	div, sc	○	○	○	○	○	（○）	（○）		

【1コース期間： 28日】 【総コース数： コース】

【適応癌種：骨髄異形成症候群 】

【時期： 術前 、 術後 、 手術不能・進行・再発】

【休薬・減量に関する要件】

項目	基準	減量内容	休薬時の再開基準

投与プロトコール

【div：day1-5 (7)】

Rp	薬剤名	投与経路（速度）
Rp.1	5-HT_3RB	div（全開で）
	生理食塩水 50mL	
Rp.2	ビダーザ 75mg/㎡	div（10分かけて）※1
	注射用水 10mL/1ﾊﾞｲｱﾙ	
	生理食塩水 50mL	
（Rp.3）	生理食塩水 50mL	div（必要に応じ、フラッシュする）

【sc：day1-5 (7)】

Rp	薬剤名	投与経路（速度）
Rp.1	5-HT_3RB	p.o.（必要時）
Rp.2	ビダーザ 75mg/㎡	s.c. ※2
	注射用水 4mL/1ﾊﾞｲｱﾙ	

【参考文献：Journal of Clinical Oncology Vol.20 No.10(May 15), 2002;pp2429-2440 】

【備考※1： ［点滴静注の場合］薬剤混合調製後、1時間以内に投与を終了させること（薬剤の安定性が低下するため）

【備考※2： ［皮下注の場合］
原則として1患者に1本のシリンジで払出を行う。
投与直前に均一に再懸濁させること。
薬剤混合調製後、1時間以内に投与を終了させること（薬剤の安定性が低下するため）。
懸濁液は冷蔵条件下（2～8℃）で8時間まで保存することができる。冷蔵条件から取り出した懸濁液は、
30分以内に投与することとし、室温に戻した後に再懸濁し投与すること。 】

【変法情報：5日間のみの投与とする場合がある 。 】